

タイトル：『ファニーたい焼きトム48  
サラダチキン』

【第一幕】

シーン1：『たい焼きトム』開店前

場所：東京都内の商店街の一角にあるた  
い焼き屋『たい焼きトム』

（朝、店内。トムが軽快なBGMをかけな  
がら、新作のたい焼きの試作をしている。  
魚住が掃除をしながら、それを見守る）

トム「ウオズミ！ついに俺は、たい焼き  
の新たな歴史を切り開いたぞ！」

魚住「また変なこと考えてる……今度は  
何ですか？」

トム「いいか、たい焼きといえば普通は  
甘い。でも、甘いばかりがたい焼きじゃ  
ない！人々はまだ知らないんだ、本当に

食事としても楽しめるとい焼きの可能性を！」

魚住「またとんでもないの考えました

ね……。で、今度は？」

トム「これだ！」（バツ！と皿を差し出す）

（魚住が覗き込むと、たい焼きの割れ目からしっとりとした白い鶏肉が覗いている。しっかりとした繊維質の肉、噛むとじゅわっと肉汁が染み出しそうな質感。

ほのかに香るローズマリーとレモンの酸味）

魚住「サ、サラダチキン……。？いや、待って、なんかハーブのいい香り……」

トム「そう！ヘルシーでジューシー！そして、このたい焼きの皮の香ばしさと、

鶏肉のしっとりした質感が最高のハーモニーを奏でるんだ！」

（トム、自信満々でたい焼きを割る。湯気が立ちのぼり、ほんのりと塩気を含んだ旨味の香りが店内に広がる）

トム「さあ、食べ！ファニーなたい焼きを体験しろ！」

（魚住、警戒しながら一口かじる。サクッとしたたい焼きの皮が音を立て、次の瞬間、中のしっとりした鶏肉の旨味が口の中に広がる。じんわりと染み込んだコンソメのコク、ほのかなガーリックの風味、噛むほどに深まる味わい）

魚住「……えっ、これ、思ったより……いや、普通にうまい……？」

トム「ほーら、言ったろ？ヘルシーで、ジューシーで、たい焼き界の革命だ！」

魚住「いやでも、これたい焼きとしてア  
リなのか……？」

（トム、看板に「本日限定！サラダチキ  
ンたい焼き！」と大きく書き込む）

## 【第二幕】

シーン2：初めての客たち

場所：「たい焼きトム」の店先

（商店街を歩いていた常連客の中年男性  
が、新メニューに気づいて立ち止まる）

常連客（佐藤）「トムよお……また変な  
ことやってんのか？」

トム「変じゃない、フアニーなんだよ、  
サトウ！人生にユーモアが足りてるか？  
このたい焼きを食べたら、口の中が冒険  
だぞ！」

（佐藤、疑わしげにたい焼きを手取る。  
割ると、中からほんのり塩気の効いた鶏  
肉が顔を出す。ジュワつとあふれる旨味。  
香ばしいたい焼きの皮と肉汁が混ざり合  
い、絶妙なハーモニーを作る）

佐藤「……………な、なんだこれ……………！？たい焼  
きのカリカリと、鶏肉のジューシー  
さ……………ありえねえのに、なんかクセにな  
る……………！」

魚住「（安堵）よかった……………」

（しかし、その後、若いカップルが来店）

彼女「え、サラダチキンたい焼き？ どう  
いうこと？」

彼氏「お前、やめとけて。たい焼きは  
あんこでいいんだよ！」

トム「ノーノー！ 人生、チャレンジが大  
事！ ほら、1つ！」

（カップルも恐る恐る食べるが、彼氏は  
渋い顔。彼女は意外にも好評価）

彼女「これ、好きかも！この、ハーブの  
香りがふわっときて、肉の旨味がじゅわ  
っと広がって、しかも皮がこんがり香ば  
しくて……！」

（彼氏、何とも言えない顔で首をかしげ  
る）

彼氏「……まあ、悪くはない……の  
か……？」

### 【第三幕】

シーン3：ジム帰りのボディーパー  
ダー登場

（夕方。『たい焼きトム』の前を、汗を  
滴らせたボディーパーダーたちが通りか  
かる。彼らのTシャツは筋肉の隆起に張  
り裂けそうだ）

ビルダー▶(ゴリ)「プロテインばっかじゃ飽きるんだよな。何か美味くて高タンパクなもんねえかな？」

ビルダー♫(マッチ)「おい、見ろ！『サラダチキンたい焼き』だと！？」

(ビルダー○が巨大な胸筋を揺らしながらメニユーを凝視する)

ビルダー○(バルク)「これは……タンパク質の革命かもしれん……！」

(彼らは並ぶこともなく店へとなだれ込む)

トム「オオウ！マッチョ・ブラザーズ、ようこそ！」

ゴリ「これ、本当にサラダチキンなのか？」

(トム、誇らしげにたい焼きを掲げる)

トム「見よ！たい焼きの香ばしい皮と、中に詰まったヘルシーなサラダチキン！ローズマリーとブラックペッパーで味を引き締め、噛めば噛むほどにジュワツと鶏の旨味が広がる！」

バルク「……プロテインじゃなくても、筋肉に効くのか？」

トム「もちろん！鶏むね肉は最強のタンパク源だ！」

（ゴリが意を決して一口かじる。サクツ！とした皮の下から、しっとりとした鶏肉が現れた瞬間、彼の目が見開かれる）

ゴリ「ナニイイイイ！！？？？」

（マッチとバルクも続いてかじる。三人が同時にガタガタと震え始め、次の瞬間、口々に叫び出す）

マッチ「ウツマアアアアアア！！！」



バルク「肉の旨味が……たまらん……！」

ゴリ「皮のパリパリと中のしっとり

が……このバランスは神か！？いや、神を越えた……『たい焼き神』か！？」

（店内の客が驚きつつも、興味津々で見守る）

ビルダーたち「おかわりだ！！」

（たちまち追加注文の嵐。熱気が店を包み込む）

#### 【第四幕】

#### シーン4：ジムとの提携

（翌日、たい焼きトムの前に、異様な光景が広がる。店の前に、分厚い筋肉を持つ男たちがズラリと並んでいる）

通行人 ▶ 「な、なんだあの集団……？！」

通行人 ♪ 「ちょっと待て、あれ……全員

マッチョじゃねえか！？しかも裸に近

い！」

（マッチョたちは、筋肉を誇示するよう  
にポージングしながらたい焼きを食べて  
いる。その姿はまるで祭りのようだ）

ビルダー ▶ 「サクサク……ジュワァ……オ  
オン！」

ビルダー ♪ 「たい焼きに、プロテインを  
超える満足感があったとは……」

（さらにエスカレーターしたマッチョたち  
は、店の前で腕立て伏せやスクワットを  
始める。たい焼きを片手に、片腕腕立て  
伏せをする者まで現れる）

魚住 「ちょっと！？ここ道ですよ！？何  
やってんの！！？」

（ビルダー〇がスクワットしながら、たい焼きを頬張る）

ビルダー〇「たい焼きパワーを、体に刻み込んでるんだ……！！」

（さらにマッチョたちがベンチプレスを持ち込み、たい焼きを食べながら上げ下げする）

魚住（頭を抱える）「もうカオス……！店の前をジムにするのはやめて！！」

（そこへ、スーツ姿の男が現れる。ジムのオーナー・片桐だ）

片桐「……トムさん、少しお話を」

トム「オオウ、ジムのオーナーさんじゃないか！」

片桐「実は……このたい焼きを、うちのジムの公式補給食にしたいんです！」

魚住「な、なんですってえ！？」

片桐「これを食べたマッチョたちの筋肉の輝きが、尋常じゃない……。これが定番メニューになれば、うちのジムの会員増加にもつながる！」

トム「フアンタステック！！提携決定だ！」

（店内の歓声が爆発。魚住が呆れつつも、苦笑いする）

魚住「……マジで、こんな展開誰が予想した？」

（マッチョたちは歓喜し、たい焼きを食べながらポーリングを決める。その光景に、商店街の人々はただただ圧倒されるのだった）

【第五幕】

シーン5：ジムへの大量配達

（トムが、大量のたい焼きを積んだ配達用バイクにまたがる。店の前では魚住が見送る）

魚住「……これ、いつまで続くんですかね？」

トム「限界なんてないさ、ウオズミ！フアニーたい焼きは進化し続けるんだ！」

（そこへ、ジムの会員たちが押し寄せる）

ビルダーたち「トム！！次のたい焼きは『プロテインたい焼き』にしてくれ！！」

トム「オオウ！？プロテイン入り！？それはフアニーだ！！」

魚住（ため息）「もう止まらない……」

（魚住が呆れつつも、どこか楽しそうに見守る中、トムは満面の笑みでバイクを走らせる。背景には、今もたい焼きを頬張るマッチョたちの姿があった）

——完——